

専攻分野の名称	看護学
専攻の区分	看護学

氏名： 牛根 嘉孝

### テーマ名：精神科看護職による受容体プロフィールの活用の検討

精神障害者の数が増加し、高齢化によって精神科身体合併症の頻度も増加している。その中には、向精神薬の影響や副作用によって合併症が引き起こされることもある。精神科看護職には正確な薬剤知識とアセスメント能力が求められている。この背景から、抗精神病薬の受容体プロフィールを視覚化することが有用であるという提案に注目する。

本レポートでは、受容体プロフィールの基礎知識を明確にし、文献や先行研究から受容体プロフィールが精神科看護職のアセスメントにどのように貢献するかを検討した。また、精神科看護職が受容体プロフィールを活用するための方法論についても考察し、どのような価値や課題をもたらすかを明確にすることを目指した。

視覚化された受容体プロフィールは副作用を確認しやすくし、対処行動をとりやすくてできるという提案がある。これをアフォーダンス理論から説明し、妥当性を高めた。しかし、高齢者においては副作用や相互作用が運動障害と類似するため、気づきを遅らせる可能性があることが示唆された。この問題に関しても、受容体プロフィールの活用によって、有害事象を予測することが可能になることが示された。ただし、活用には限界があり、不正確なアセスメントを招く可能性が考えられた。この問題に対し、多職種連携・協働、看護学における薬理学教育の改善が有効であることが考えられた。まず、多職種との連携方法として、カンファレンスの開催と、心理的安全性の確保が効果的である可能性を明らかにした。つぎに、受容体プロフィールを活用するには、看護職と薬剤師の協働や適切な役割分担が必要であることが示唆された。また、患者から副作用に関する質問が多く寄せられることを踏まえ、患者ニーズに合わせた協働的な説明が有効であると示された。さらに、看護学における薬理学教育において、受容体プロフィールを活用することで学びが深まることが推測された。

これらの考察から、受容体プロフィールを用いた看護アセスメントに関する研究を積極的に行うこと、受容体プロフィールを含めた看護薬理学教育の充実を図ること、多職種連携を促進するための教育プログラムや研修の充実を図ることが必要であると結論づけた。これらの3つの課題に取り組むことで、さらなる精神科看護の質の向上に貢献していくとともに、患者の身体合併症や有害事象が減少し、健康維持につながることを期待される。